

CAN-DO リストを活用した小学校外国語科の授業づくり

—小学校外国語科における「思考力、判断力、表現力等」の育成をめざして—

海南市立巽小学校
教諭 松尾 竜典

【要旨】

本研究では、小学校外国語科における「思考力、判断力、表現力等」の育成をめざし、CAN-DO リストを作成するとともに、CAN-DO リストを活用した授業づくりを提案する。CAN-DO リストの作成に当たっては、近隣の中学校英語科教員を含めた作成チーム（9名）を編成し、所属校の児童の実態を考慮しながら、第5・6学年の学習到達目標を設定した。その活用にあたっては、CAN-DO リストの学習到達目標からパフォーマンス課題等の言語活動を行うことを一例として示した。CAN-DO リストを活用した授業づくりを行った結果、児童がコミュニケーションを行う目的や場面、状況等を意識しやすい言語活動を設定でき、「思考力、判断力、表現力等」を育む一助になったと考えている。

【キーワード】

CAN-DO リスト、「思考力、判断力、表現力等」、パフォーマンス課題、単元計画シート

1 研究のねらい

本研究の目的は、所属校のCAN-DOリストを作成するとともに、CAN-DOリストを活用して、授業づくりを行い、小学校外国語科における「思考力、判断力、表現力等」の育成をめざすことである。CAN-DOリストとは児童が学習した後に、言語を使って何ができるようになるのかを具体的に記述した学習到達目標の一覧のことをいう。また、「思考力、判断力、表現力等」は、理解していること、できることを基に、コミュニケーションを行う目的や場面、状況等に応じて、身近で簡単な事柄について、自分の考えや気持ちを伝え合うことができる基礎的な力を指す。

学習指導要領（平成29年告示）によると、小学校外国語科が導入された背景の一つには、グローバル化が急速に進展する中で、外国語によるコミュニケーション能力が、生涯にわたる様々な場面で必要とされることが想定され、その能力の向上が課題となることが挙げられる。したがって、小学校外国語科では、「育成を目指す資質・能力を児童が確実に身に付けることができるよう工夫する」（※1）ことが求められている。そのために、学習指導要領（平成29年告示）の五つの領域（「聞くこと」、「読むこと」、「話すこと〔やり取り〕」、「話すこと〔発表〕」、「書くこと」）別の目標（以下、領域別目標と略記）が明確に示されている。そして、「その目標と関連付けられた学年ごとの『学習到達目標』を各学校において設定する必要がある」（※2）ことが述べられている。各学校が学習到達目標を定める効果については、身に付く英語力や英語を使ってできることが明らかになり、それを教員と児童が共有することでねらいを明確にできることや、教員間で指導に当たっての共通理解を図り、均質的な指導を行うことができること等が挙げられる。

小学校外国語科の全面実施に向け、外国語を使ってコミュニケーションを図るための基礎的な資質・能力を育成する授業を行っていく必要がある。そこで、本研究では、「思考力、判断力、表現力等」の育成に焦点を当て、CAN-DOリストの作成及び活用を通して、実際の言語使用場面で言語を使って何ができるかということを見通した指導と評価をする授業づくりを行う。なお、小学校外国語科は、2020年度から全面実施される教科であり、本研究における授業づくりは、学習指導要領（平成29年告示）に基づいて行うものとする。

2 研究の方法

（1）Tatsumi CAN-DO リストの作成

所属校においてCAN-DOリストを作成するため、管理職や高学年学級担任、専科教員、近隣の

中学校英語科教員を含めた作成チーム（9名）を編成した。そして、作成したCAN-DOリストを所属校名からTatsumi CAN-DOリストとした。

作成に当たっては、まず新学習指導要領対応小学校外国語教材 We Can！（以下、We Can！と略記）の分析を行い、各単元にある言語活動を整理した。次に各単元の領域別目標を整理した年間指導計画案を作成し、それぞれの単元で児童が言語を使って何ができるようになればよいかを整理した。その上で、学習指導要領（平成29年告示）の目標に基づきつつ、所属校や児童の実態を考慮しながら、五つの領域別目標毎に第5・6学年の学習到達目標を設定した。

五つの領域別目標は、技能の特性から受容技能（「聞くこと」、「読むこと」と発表技能（「話すこと〔やり取り〕」、「話すこと〔発表〕」、「書くこと」）の2つに分類される。学習到達目標の記述文について根岸（2010）は、観察可能で評価可能な言語活動を記述するために、2つの技能それぞれに表1のような3要素が

表1 各技能の学習到達目標に含まれる3要素

受容技能 聞くこと・読むこと	発表技能 話すこと・書くこと
Condition（条件）	Condition（条件）
Text（文）	Quality（質）
Task（タスク）	Performance（パフォーマンス）

含まれるとしており、これらの3要素に注目することで、授業づくり等に活用することができる。しかし、1文の中の3要素を即座に識別しづらいのではないかと考えた。そこで、活用のしやすさを意識して、Tatsumi CAN-DO リストの記述文を表2のように3要素に分割して示すこととした。これにより、3要素を意識しやすくなり、授業で取り組むパフォーマンス課題等の言語活動や、その評価規準についても設定しやすくなっている。また、学年が上がる際の、学習内容の次のステップが分かりやすくなっている。例えば、表2にある第5学年と第6学年のCondition（条件）を見ると、第5学年の「自分のことについて」を受け、第6学年では「身近で簡単な事柄について」自分の考えや気持ちを話すことができるように設定されていることが分かる。さらに、それぞれの領域の下段には単元毎の具体的な目標を記し、それぞれの単元でどのような活動を行うかを示した。

表2 Tatsumi CAN-DO リストにおける第5・6学年の学習到達目標の系統性 ※下線筆者

第5学年 話すこと〔発表〕	第6学年 話すこと〔発表〕
Condition（条件）	Condition（条件）
自分のことについて、簡単な語句や基本的な表現を用いて、	身近で簡単な事柄について、簡単な語句や基本的な表現を用いて、
Quality（質）	Quality（質）
話す内容を聞き手に分かりやすく整理して、	話す内容を聞き手に分かりやすく整理して、
Performance（パフォーマンス）	Performance（パフォーマンス）
自分の考えや気持ちを話すことができる。	自分の考えや気持ちを話すことができる。
具体的な目標	
【全体】 話す内容を聞き手に分かりやすく整理したり、伝える工夫を用いたりしながら発表できる。 【U1, U5】 自分の好きなことや欲しいもの、ある人物のできること・できないことについて、話すことができる。 ※以下省略	【全体】 話す内容を聞き手に分かりやすく整理したり、伝える工夫を用いたりしながら発表できる。 【U1, U7】 自己紹介文や思い出アルバムを作成し、自分のことについて話すことができる。 ※以下省略

例えば、表2にある第5学年と第6学年のCondition（条件）を見ると、第5学年の「自分のことについて」を受け、第6学年では「身近で簡単な事柄について」自分の考えや気持ちを話すことができるように設定されていることが分かる。さらに、それぞれの領域の下段には単元毎の具体的な目標を記し、それぞれの単元でどのような活動を行うかを示した。

（2）Tatsumi CAN-DOリストを活用した指導と評価の計画

文部科学省は、CAN-DOリストの形で学習到達目標を設定することで、「実際の言語使用場面で言語を使って何ができるかということを見通した指導と評価を行うことができる」（※3）と述べている。また、投野（2015）は、CAN-DOリストを基に言語活動を具現化することが可能だとし、その言語活動は日常に起こりうる実践的なものになるよう留意する必要があるとしている（図1）。このような言語活動を単元のパフォーマンス課題として設定することで、児童がコミュニケーションを行う目的や場面、状況等を意識しやすい言語活動を設定した授業を計画できると考える。

そこで、Tatsumi CAN-DOリストを活用して言語活動をパフォーマンス課題として設定し、ルーブリックを用いて評価の判断基準を児童と共有した上で評価を行っていく。

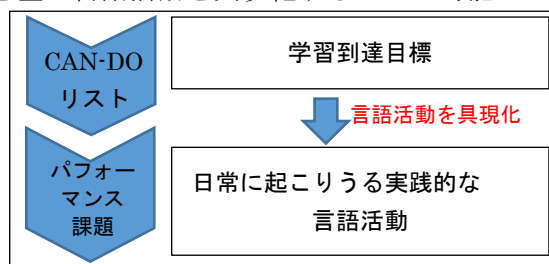


図1 パフォーマンス課題作成図を基に筆者作成

また、各単元での授業づくりに当たり単元計画シートを作成した。この単元計画シートの利点は、単元目標や学習到達目標等が一目で確認でき、パフォーマンス課題を始めとする言語活動を設定しやすくなることである。図2は、筆者が実施した提案授業の単元計画シートである。単元計画に当たっては、①We Can!の言語活動から関連する領域別目標を確認し、パフォーマンス課題に直結する領域別目標を確定する。次に、②Tatsumi CAN-DOリストから領域別目標に合う学習到達目標を抜き出し、③We Can!にある言語活動を基にパフォーマンス課題としての言語活動を設定する。さらに、④パフォーマンス課題を評価するための指標としてルーブリックを作成する。そしてパフォーマンス課題を定めた後、⑤各時間のToday's Goal(めあて)を設定する、という手順とした。

1 単元名 Unit 1 This is ME! 自己紹介			
2 単元目標			
<ul style="list-style-type: none"> 自己紹介に関する表現や好きなこと、できることなどを聞いたり言ったりすることができる。(知識及び技能) 自己紹介で自分の好きなことやできることなどについて伝え合う。(思考力、判断力、表現力等) 他者に配慮しながら、好きなことやできることなどについて伝え合おうとする。(学びに向かう力、人間性等) 			
3 関連する領域別目標 (■: パフォーマンス課題に直結)		①	
<input type="checkbox"/>	聞くこと	イ ゆっくりはっきりと話されれば、日常生活に関する身近で簡単な事柄について、具体的な情報を聞き取ることができるようにする。	
<input type="checkbox"/>	話すこと (やり取り)	イ 日常生活に関する身近で簡単な事柄について、自分の考えや気持ちなどを、簡単な語句や基本的な表現を用いて伝え合うことができるようにする。	
<input checked="" type="checkbox"/>	話すこと (発表)	イ 自分のことについて、伝えようとする内容を整理した上で、簡単な語句や基本的な表現を用いて話すことができるようにする。	
4 パフォーマンス課題設定		②	
<div style="background-color: #0070C0; color: white; padding: 5px; margin-bottom: 5px;">話すこと (発表)</div> <div style="background-color: #0070C0; color: white; padding: 5px;">パフォーマンス 課題</div>	Tatsumi CAN-DO リスト	話すこと [発表]	
	Condition 条件		
	身近で簡単な事柄について、簡単な語句や基本的な表現を用いて、		
	Quality 質		
	話す内容を聞き手に分かりやすく整理して、		
Performance パフォーマンス			
自分の考えや気持ちを話すことができる。			
具体的な目標			
[全体] 話す内容を聞き手に分かりやすく整理したり、伝える工夫を用いたりしながら発表できる。 [U1, U7] 自己紹介文や思い出アルバムを作成し、自分のことについて話すことができる。			
ALTのAnna先生に自己紹介することになりました。伝えることは、「好きなこと」と「得意なこと」です。自分のことをよく知ってもらえるよう工夫をしながら自己紹介しましょう。		③	
ルーブリック		④	
	A	B	C
態度	聞いてくれる人の反応を確かめながら、ジェスチャー等を用いて	スピーチ原稿の助けがあれば、聞いてくれる人を見ながら	スピーチ原稿を常に見ながら
内容	Bの内容に加えて、これまでに習った表現も使って自己紹介をすることができる。	好きなこと2つ、得意なこと1つを言って自己紹介をすることができる。	日本語を使いながら自己紹介をすることができる。
5 単元計画		⑤	
時	Today's Goal(めあて)		
1	好きな動物について聞いたり言ったりできる。		
2	好きなスポーツ・教科について聞いたり言ったりできる。		
3	得意なことを伝え合ったり自己紹介を聞いて好きなことを聞き取ったりできる。		
4	スピーチ原稿を見ながら自己紹介をすることができる。		

図2 単元計画シート例 ※①~⑤は、文中の①~⑤に対応

パフォーマンス課題、ルーブリック、各時間のToday's Goalについては、振り返りシート(図3)を用いて児童と共有する。また、各時間のToday's Goalについては、振り返りシートの中に3件法を用いた、「Today's Goalチェック」を設け、各時間で児童に自己評価をさせる。「自分の力で、(Today's Goalが)いつでもできる」とは、自分が授業での言語活動と似た場面に出合ったときに、コミュニケーションを行うことができるかどうかについて問うものであり、「思考力、判断力、表現力等」の育成に関わると考える。

(3) 所属校における提案授業

所属校の第6学年(2学級54名)を対象にWe Can! 2を使用し, Unit 1 This is ME!の単元で筆者が提案授業を行った。文部科学省が公表している学習指導案例では, 8時間構成となっている単元であるが, 海南市における移行期間中の年間指導計画に則って全4時間とした。また, パフォーマンス課題については, 発表の様子を動画で撮影し, 授業時間外で評価を行った。

授業計画に当たっては, パフォーマンス課題における言語活動を見据えて行った。また, 単元を通して「聞くこと」、「話すこと」の言語活動に取り組むことから始め, 語句や表現に音声で十分慣れ親しませた後, それらを単元後半の「読むこと」や「書くこと」の言語活動で扱うという順序性に留意した(表3)。さらに, 表4のように1時間の授業展開も, その順序性に留意した。

表3 本単元における主たる言語活動の領域の順序性

Unit 1	主たる言語活動の領域
第1時	・聞くこと
第2時	・聞くこと ・話すこと〔やり取り〕
第3時	・話すこと〔やり取り〕 ・話すこと〔発表〕
第4時	・書くこと ・話すこと〔発表〕

3 成果と課題

2で示した研究内容の効果について, 事前事後アンケート結果の比較, 「Today's Goalチェック」の変容, パフォーマンス課題の評価から成果を順に述べ, 課題についてまとめる。

(1) 成果

提案授業の前後で4件法を用いたアンケート調査を行い, 結果を比較した。表5は, 「あてはまる」「どちらかといえばあてはまる」を選んだ肯定的な回答の割合を示している。質問項目1~3は, 本提案授業で扱った領域別目標に関わるものであり, それぞれ「聞くこと」、「話すこと〔やり取り〕」、「話すこと〔発表〕」について自己評価を問う項目である。また, 質問項目4は, めあてや目標を児童が認識できていたかを問うものである。いずれも事前に比べ, 肯定的な意見が大きく増加している。自己紹介をするという本単元の

ふり返しシート

Class _____ Name _____

パフォーマンス課題: 自己紹介をしよう(4時間目)

ALTのAnna先生に自己紹介をすることになりました。伝えることは, 好きなことと得意なことです。自分のことをよく知ってもらえるよう工夫しながら自己紹介をしましょう。

Today's Goal チェック!

A	自分の力で (Today's Goal が) いつでもできる。
B	自分の力で (Today's Goal が) だいたいできる。
C	みんなといっしょなら (Today's Goal が) できる。

Today's Goal	自分でチェック	振り返り
1 好きな動物について聞いたり言ったりできる。	授業に進んで取り組みましたか。 Today's Goal チェック A ・ B ・ C	
2 好きなスポーツ・教科について聞いたり言ったりできる。	授業に進んで取り組みましたか。 Today's Goal チェック A ・ B ・ C	
3 得意なことを伝え合ったり自己紹介を聞いて好きなことを聞き取ったりできる。	授業に進んで取り組みましたか。 Today's Goal チェック A ・ B ・ C	
4 スピーチ原稿を見ながら自己紹介をすることができる。(パフォーマンス課題)	授業に進んで取り組みましたか。 Today's Goal チェック A ・ B ・ C	

ルーブリック

話すこと(発表)	A	B	C
態度	聞いてくれる人の反応を確かめながら, ジェスチャー等を用いて	スピーチ原稿の助けがあれば, 聞いてくれる人を見ながら	スピーチ原稿を常に見ながら
内容	Bの内容に加えて, これまでに習った表現も使って自己紹介をすることができる。	好きなこと2つ, 得意なこと1つを言って自己紹介をすることができる。	日本語を使いながら自己紹介をすることができる。

図3 提案授業で用いた振り返りシート

表4 Unit1 第3時の学習活動の領域の順序性

◎本時の主たる言語活動

時	学習活動 ■Today's Goal	領域
3分	あいさつ ■得意なことを伝え合ったり自己紹介を聞いて好きなことを聞き取ったりできる。	
5分	[Let's Listen] ・得意なことを述べた自己紹介を聞いて分かったことを記入する。	・聞くこと
7分	[Let's Watch and Think] ・動画を見て分かったことや聞き取ったことを交流する。	・聞くこと
7分	[Let's Play] ・動作の絵を使ってポインティングゲームをする。	・聞くこと ◎話すこと〔やり取り〕
7分	[Let's Talk] ・ペアを作り, 自分の得意なことを含めた自己紹介をし合う。	◎話すこと〔発表〕
6分	[Let's Read and Write] ・文例: I can (cook). ・音声を聞きながら言った後, ワードボックスから言葉を選んで自分の得意な動作を書き写す。	・聞くこと ・読むこと ・書くこと
5分	[Sounds and Letters "c"]	・聞くこと ・読むこと ・書くこと
5分	振り返り	

言語活動に直結している質問項目3は、肯定的な回答が96.2%となった。

また、めあてや目標を児童が認識できていたかを問う質問項目4については、「あてはまる」と答えた児童に注目すると20.8pt増加しており(図4)、児童はめあてや目標を意識し

ながら言語活動に取り組んでいたことが分かる。これらの結果は、児童が、この授業で言語を使って「何ができるようになるか」について明確に認識でき、その力の成長を実感できたことを示している。

次に、児童の自己評価を見取る振り返りシートの「Today's Goalチェック」の変容(図5)から成果を述べる。本單元における1時間毎の変容を見てみると、授業を重ねる毎に「自分の力で、(Today's Goalが)いつでもできる」を選んだ児童の割合が増え、第1時と比べて、第4時では16.7pt増加していることが分かる。これは児童が、各授業で行った言語活動の目的や場面、状況等に応じて外国語を用いて自分の考えや気持ちを伝え合うことができると自己評価した結果であり、自分が授業での言語活動と似た場面に出合ったときに、コミュニケーションを行うことができると判断した児童が増えたということである。つまり、提案授業が児童の「思考力、判断力、表現力等」を育む一助になったのではないかと考える。

パフォーマンス課題の評価については、先の図2に示したルーブリックを用いて行った。図6は、内容面・態度面共にA評価である児童の発表内容である。この児童は、B評価の内容に加え、下部に示される、本單元で扱うことのない既習の語句等を用いながら自己紹介ができた。さらにスピーチ原稿を見ずに、声の大きさ等にも留意しながらジェスチャー等を交えつつ自己紹介ができた。

ルーブリックを用いて評価を行った結果、内容面においても態度面においても、ほとんどの児童がB評価以上を獲得していることが分かる(表6)。このことから、児童は、提案授業を通して、簡単な語句や基本的な表現を使って自己紹介ができるようになったと言える。

なお、参考として学級担任や専科教員等にもルーブリックを用いた評価を依頼した。また、児童も自己評価を行った。内容面においては、筆者と学級担任や専科教員の評価を比べてもばらつきが少なく、ルーブリックによる内容面の評価は概ね妥当であったと考える。筆者と児童の内容面での

表5 肯定的な回答の割合(n=54)

質問項目	質問内容	事前 (%)	事後 (%)	差 (pt)
1 聞くこと	外国の人の自己紹介を聞いて、何が好きか等を自分の力で聞き取ることができると思いますか。	62.3	75.5	+13.2
2 話すこと [やり取り]	外国語の授業で、友達や先生と自分の考えや気持ちを伝え合うことができますか。	64.2	86.8	+22.6
3 話すこと [発表]	英語で簡単な自己紹介をすることができますか。	79.3	96.2	+16.9
4 めあてや目標への認識	外国語の授業ではめあてや目標を意識して取り組んでいますか。	71.7	83.0	+11.3

1. あてはまる 2. どちらかといえばあてはまる 3. どちらかといえばあてはまらない 4. あてはまらない

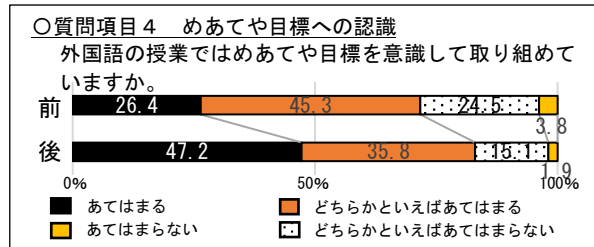


図4 質問項目4の事前事後アンケート結果の比較(n=54)

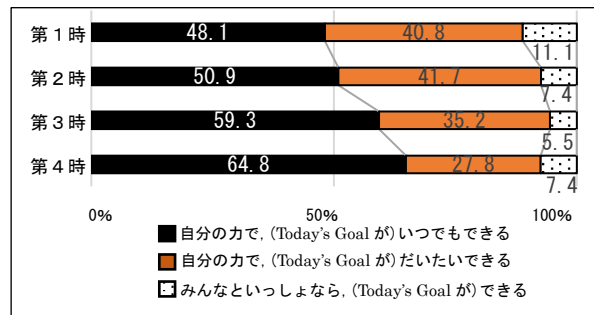


図5 Today's Goal チェックの結果(n=54)

Hello.
My name is ○○○○.
 I'm from Kainan city.
 I like baseball.
 I like cats and tigers.
 I like science.
 I can play baseball well.
 Thank you.

図6 A評価の発表内容

表6 評価者別のパフォーマンス課題の評価

評価者	内容			態度		
	A	B	C	A	B	C
筆者	18	34	2	22	31	1
担任	17	37	0	28	23	3
専科	17	37	0	13	32	9
児童	17	36	1	12	37	5
ALT	41	12	1	40	13	1

単位：人 (n=54)

評価を比べてもばらつきは少なかった。

CAN-DOリストを活用した授業づくりを行ったことで、授業者にとっても児童にとっても言語を使って「何ができるようになるか」が見通しやすくなり、児童がコミュニケーションを行う目的や場面、状況等を意識しやすい言語活動を設定できた。そのため、児童の理解していることやできることが増え、それにもなって「思考力、判断力、表現力等」の育成に繋げることができたのではと考えている。

(2) 課題

課題は2点挙げられる。1点目は、ルーブリックにおける評価の判断基準等について、さらなる共有が必要であったことである。パフォーマンス課題の評価について、専科教員とは態度面において、ALTとは内容面と態度面においてずれがあった(表6)。これは、筆者が専科教員やALTに評価の判断基準について十分な説明ができていなかったことが原因であると考えている。言語を使って「何ができるようになるか」を見据えて協力して授業を行うためには、評価規準をしっかりと共有しておくことが重要である。また、筆者と児童との態度面におけるずれについては、ルーブリックの「スピーチ原稿の助けがあれば」というB評価の記述から、児童に少しでもスピーチ原稿を見てしまうとBだという認識にさせてしまった。CAN-DOリストを活用して授業づくりを行っていく上で、共有を図る手立てを丁寧にしていく必要がある。

2点目は、パフォーマンス課題を行うに当たって、さらに「思考力、判断力、表現力等」を伸ばす手立てがあったのではないかとこのことである。本提案授業では、スピーチ原稿を用意させたが、発表の際に児童がそれを読み上げるなどスピーチ原稿に頼りすぎてしまう様子が見られた。発表の助けとして図7のようなアウトラインを示すに留める等の工夫ができたのではないかと考える。



図7 発表における
アウトライン例

4 今後に向けて

本研究では、CAN-DOリストを活用して授業づくりを行い、小学校外国語科における「思考力、判断力、表現力等」の育成をめざした。今後は、コミュニケーションを行う目的や場面、状況等を意識した言語活動をより充実させ、児童が自分の伝えたい事柄をそれまでの学習や経験で蓄積した理解していることやできることを駆使して、自分の力で自分の考えや気持ちを伝え合えるようにする。そして、そのような言語活動を繰り返し行うことで、児童の「思考力、判断力、表現力等」の育成につなげていく。

また、Tatsumi CAN-DOリストの学習到達目標の記述文の中には、言語を使って「何ができるようになればよいか」を見通しにくいものもあり、今後、児童の姿を想像しやすいものにできるよう、より具体化していく。このようにTatsumi CAN-DOリストを改善するとともに、所属校で教員同士及び児童等と共有できるよう取り組んでいきたい。

<引用文献>

- ※1 文部科学省『小学校学習指導要領解説 外国語活動・外国語編』p.69 (2018)
- ※2 文部科学省『小学校学習指導要領解説 外国語活動・外国語編』p.123 (2018)
- ※3 文部科学省「各中・高等学校の外国語教育における『CAN-DOリスト』の形での学習到達目標設定のための手引き」p.25 (2013)

<参考文献>

- ・ 投野由紀夫『CAN-DOリスト作成・活用 英語到達度指標 CEFR-J ガイドブック』大修館(2013)
- ・ 根岸雅史「CEFR-J ベータ版への確定作業について」(2010)
<http://www.cefr-j.org/PDF/TonoKaken2008-2011InterimReport.pdf>
- ・ 文部科学省『新学習指導要領対応小学校外国語教材 We Can!』(2017)
- ・ 文部科学省「小学校外国語活動・外国語研修ガイドブック」(2017)
http://www.mext.go.jp/a_menu/kokusai/gaikokugo/1387503.htm
- ・ Dannelle D.Stevens and Antonia J.Levi “INTRODUCTION TO RUBRICS” Stylus (2013)